

下商物語 (その三四) 歴代の校長先生のはなし

教諭 林 俊行

前回に続いて、本校歴代校長先生の紹介を昭和の時代を中心に簡単にまとめてみました。

第十代「藤井 鶴松」(大正十四年九月から昭和十九年十一月 教科・修身)山口県都農郡出身 京都帝大卒 四十三歳で岐阜県立東濃中学校より着任 新築移転した千手原校舎と歩みを共にされ本校教育環境の拡大整備に大変尽力されました。特に、千手原校舎落成移転、待望の講堂建設(国内外の全同窓生に寄付の依頼、満額への修学旅行実施、父兄会(現在のPTA)設立、財団法人下商教育後援会設立認可、学徒戦時動員体制、繰上げ卒業など大正時代の終わりから戦時下の混乱期までの約二十年間に亘って大変な熱意をもって学校運営に取り組みされました。戦時中には、商業教育不要論が台頭し、国策で工業学校・農業学校への転換が強力に進められましたが、全同窓生に全面協力を求めて本校を商業学校として守り通されました。昭和二十三年に七十四歳で逝去。

第十一代「黒崎 晋介」(昭和十九年十二月から昭和二十一年四月 英語)東京都出身 東京商科大学卒 五十四歳で防府中学校より着任。戦時下から終戦時にかけて大変な時期に本校発展のために尽力されました。退任後は下関高女の校長へ。

第十二代「上田 強」(昭和二十一年四月から昭和三十一年九月 商業)兵庫県出身 戦後の大混乱期を乗り切つて現在の下商の礎(古くて新しい学園の創造)を築かれた名物校長先生の一人 神戸高商卒 住友銀行入行後に病気をされ富山市で転地療養後、昭和二十二年に下関へ 下関商工学校(現在の下関中央工業高校)より着任。在任中に実に数々の功績を残されました。市立下関女子商校の編入(校舎焼失のため)や学制改革、同窓会の復活、社団法人下商同窓会認可、野球後援会の復活、図書館建築・図書の時局設定、下商七十年史編集、校誌「豊原復活」下商新聞の創刊、定時制の開設、特に各学校行事を盛大に挙行されるなど積極的に本校発展のために大変尽力されました。教科指導も素晴らしい名講義をされました。大変折り返し思いやりのある人柄は絶賛されました。先生の著書で本校の教々のエピソードを綴つた「千手原史話」シリーズなどは大変に興味深いものです。耳が大きい「カンタ」というニックネームはアメリカの喜劇俳優のエイ・キャンターから、退任後は下関市の教育長として活躍されました。昭和六十年 八十八歳で富山市にて逝去。

第十三代「河村 達也」(昭和三十一年一月から昭和四十三年三月 英語)山口県大島郡出身 九州帝国大卒 五十四歳で山口・宇部・豊浦高校の校長より就任、本校の体育奨励に関して体育後援会の結成など尽力されました。特に、野球校長として名実ともに活躍され、県高野連理事長や本校の野球部全国制覇などの偉業を関係者と共に成し遂げられました。特筆すべきは、昭和二十四年から三十九年春まで山口県高野連の会長を永年に亘って熱心に担当されました。さらに、野球だけでなく学校経営からそらばりばりまですべての面を上を目指されました。姉妹校の鹿児島商業高校との盟約などもその取り組みの一つ。退職後、福岡女短大に英語科を開設され、九州産業大学の教授などを歴任されました。昭和五十九年 八十二歳で逝去。

第十四代「柴崎 靖彦」(昭和四十年四月から昭和四十四年三月 数学)防府市出身 広島文理大卒 防府高校より就任。施設・設備の充実に尽力され、商業科棟・物理・被服教室の建設をされた。女子制服の変更に取り組み、昭和四十一年度の新入生からグレーの制服へと移行されました。在職中に優れた教育功労者として文部大臣表彰を受賞されました。退職後、防府市教育長へ就任されました。

第十五代「伊勢木 秀雄」(昭和四十四年四月から昭和四十五年九月 商業)昭和十九年から本校に勤務され、教頭、校長と本校で昇任されました。山口高商卒。校内の数々の要職をこなされ、部活動の活性化でも特に卓球部を創設され実力ある選手の育成に努められ全国クラスの選手も育てられました。在職中に病気をされ、惜しまれて退職されました。

第十六代「金森 昌彦」(昭和四十五年九月から昭和五十年三月 国語)下関市出身で宇部商業高校より着任 国士館専卒。創立八十八周年記念事業として当時、公立高校では西日本一の体育館、創立九十周年記念事業として待望のプールの落成など念願の施設、設備の充実や集団宿泊訓練の取り組みなどに尽力されました。昭和四十八年度入学生からの男女共学制などの取り組みも意欲的にされました。退任後は、柳井高校校長へ現在は、大分市にご在任。

第十七代「木下 宗一」(昭和五十年四月から昭和五十四年三月 国語)山口市出身 宇部商業高校より着任 大東文化学院大卒。漢文が専門 弓道場の落成、教育相談室の開設、多読賞制度の新設などに取り組みました。退任後は、山口中央高校校長へ

第十八代「尾崎 秋信」(昭和五十四年四月から昭和五十七年三月 理科)山口市出身 防府養護学校より着任 広島高師卒。旧校舎の現状(経年劣化等)から創立百周年に向けて新校舎建設に多大な尽力をされました。旧校舎解体・プレハブ校舎建設・新校舎竣工への道筋をつけられて豊浦高校へ 現在は、山口市にご在任。

第十九代「亀田 義信」(昭和五十七年四月から昭和六十年三月 英語)下関市出身 宇部中央高校より着任 京都大学卒 創立百周年に向かつて、記念事業推進委員会発足、記念式典や記念事業を昭和五十九年十月に盛大に挙行されました。また、中国青島の学校と姉妹校の盟約を結ばれました。下商百年史(図録編)刊行。平成二十五年十二月に逝去

第二十代「小松 英三」(昭和六十年四月から昭和六十二年三月 商業)萩市出身 岩国商業高校より着任 京都大学卒。昭和六十一年の全国高校総体地元引き受け(本校は、昭和六十一年の全国高校総体地元引き受け(本校はバドミントン会場)として熱心に取り組みされました。商業科目の充実化や第二の海外姉妹校韓国釜山商業高校(現在の開成高校)との盟約にも尽力されました。推薦入試制度開始(定員の15%枠)、学校平和宣言採択。退任後は、防府商業高校校長へ 現在は、萩市にご在任。

第二十一代「小田 明」(昭和六十二年四月から平成元年三月 商業)下関市出身 昭和二十九年から本校に勤務 その後、教頭に昇任され萩商業高校校長から本校へ 昭和三十八年の硬式野球部全国制覇時の野球部長 大分大学卒 特技は剣道・居合道 本校創立百周年記念事業の推進役として活躍されました。学則改定、下商百年史(資料年表編)刊行。本校のサブグラウンド(多目的グラウンド・テニスコート)の開設にも大変尽力されました。退任後は、早稲田高校の校長へ。現在は、下関市内にご在任。

校地が名池山から現在の千手原へと移転して、激動の昭和の時代を数々の名物校長先生の手によって下商は、平成時代へと引き継がれていきます。以下、次号へ